

役員名簿・編集後記

会報

第35号

平成25年10月発行

CONTENTS

ごあいさつ 1
 総会特集 2~6
 要望活動 6
 啓発活動 7~9
 役員研修 10~11
 お知らせ 11
 役員名簿・編集後記 12

【鈴鹿市矢橋町の菊畑】

21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



会長
小菅 弘正

会員の皆様方には、当会の事業活動につきまして格別のご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、9月8日には東京での2020年オリンピック開催決定の明るい話題により日本全国が歓喜の渦に包まれました。

一方で、この夏は、異常気象による連日35度を超える猛暑日が続き、更には、国内観測史上最高となる41度を高知県四万十市にて記録いたしました。

そして、各地において、猛暑の影響による水不足や葉物野菜の高騰、また、これまで経験したことのないゲリラ豪雨や竜巻の発生による甚大な災害等によって、国民生活に支障を及ぼすこととなりました。

気象庁の有識者による分析検討会の発表によると、今夏の猛暑や豪雨を異常気象と結論づけ、異常気象の原因には、温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が現れているとされております。

そんな中、今年の夏も電力不足が懸念され、国や電力会社からは特に電力が不足する平日の13時~16時のピーク時に生活に無理のない範囲での節電への協力要請があり、企業や国民の省エネや節電への積極的な取組みと電力会社の火力発電所のフル稼働による供給力の確保の結果、何とか停電は回避されました。

当会は、これまで、国のエネルギー政策への理解者層拡大に向けた活動を展開しており、世界的に深刻さを増している地球温暖化や環境問題に関しても、「環境との調和を図ったエネルギーの確保等による低炭素社会の実現」を目指して、広く県民の皆様方にご理解をいただくべく、積極的に啓発活動を実施してきております。

我が国の国民生活や経済活動は大量のエネルギー資源に支えられており、特に日常生活に欠かすことのできない、ライフラインである電気・ガス・水道、また、豊かなライフスタイルの基盤となっている交通、運輸、通信などすべてにおいてエネルギーが利用されています。

しかしながら、我が国は、エネルギー自給率が4%の超資源小国であり、エネルギー資源の大部分については化石燃料に依存し、海外からの輸入に頼っているのが現状ではありますが、過度な依存は、エネルギーセキュリティの面から大きな課題であります。

一方で、新たな純国産のエネルギー資源として、我が国の周辺に相当量の「メタンハイドレート」の存在が確認され期待されていますが、将来の実用化にはまだまだ時間がかかるといわれております。

今、国においては、エネルギー政策の議論がなされ、年内中にも前政権のエネルギー政策を大幅に見直した新たなエネルギー基本計画が策定されようとしておりますが、国におかれては、国の持続的発展、豊かな国民生活、地球環境等を十分に勘案した内容となることを願うものであります。

エネルギーや環境問題については、多くの県民の皆様方が、冷静な視点で、かつ、自分自身の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、自ら行動することが重要であると考えます。

そのために、当会としましては、エネルギー・環境問題に関し、広く県民の皆様方の意識レベルの向上に寄与できる施策を実践することで、理解者層の一層の拡大を図り、県民の「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

今後も会員の皆様方のより一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

役員等一覧 (平成25年8月1日現在)

<p>■ 会長 小菅 弘正 (四日市商工会議所 顧問)</p> <p>■ 副会長 竹林 武一 (三重県商工会議所連合会 会長) 藤田 正美 (三重商工会連合会 会長) 佐久間 裕之 (三重県中小企業団体中央会 会長) 岡本 直之 (三重県経営者協会 会長) 藤原 義之 (三重友愛連絡会 議長) 井坂 紀之 (エネルギー問題三重県研究会 代表世話人)</p> <p>■ 理事 齋藤 彰一 (三重県商工会議所連合会 副会長) 上島 均之 (同上) 中山 忠一 (同上) 西村 憲一 (同上) 川口 秀一 (同上) 須崎 庄平 (四日市商工会議所 専務理事) 安藤 邦晃 (三重県商工会連合会 副会長) 服部 基恒 (同上) 坂下 啓登 (同上) 藤村 達光 (同上) 尾博 憲光 (三重県中小企業団体中央会 副会長) 林憲 忠光 (同上) 向井 弘光 (同上) 黄瀬 穂子 (同上) 伊藤 恵子 (同上)</p> <p>■ 監事 高崎 征輝 (三重県経営者協会 副会長)</p>	<p>■ 理事 稲葉 邦成 (三重県経営者協会 副会長) 浅田 剛 (同上) 内田 淳 (同上) 小川 謙 (同上) 小眞 謙 (同上) 眞壁 雅夫 (同上) 渡辺 友治 (同上) 浅野 啓介 (電機連合三重地方協議会 副議長) 法所 誠明 (自動車総連三重地方協議会 議長) 木村 敬明 (UAゼンセン三重県支部 運営評議会副議長) 長谷川 誠一 (JEC連合三重県地方協議会 幹事) 伊藤 圭三 (日産労連三重地方協議会 議長) 宮崎 三三 (交通労連中部地方総支部三重県支部 支部長) 東浦 敏久 (基幹労連三重県本部 委員長) 広垣 和彦 (電力総連三重県電力総連 会長) 岩橋 邦彦 (公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会 会長) 梶田 淑子 (三重県地域婦人団体連絡協議会 会長) 伊藤 幸子 (三重県新生活運動推進協議会 会長) 青山 重孝 (公益社団法人三重県医師会 会長) 山下 晃一 (一般社団法人三重県建設業協会 会長) 瀬河 英雄 (社団法人三重県建築士会 会長) 江邊 一雄 (三重県商店街振興組合連合会 理事長) 渡辺 修次 (三重県電器商業組合 理事長) 楠伊藤 達雄 (三重県電気工事業工業組合 理事長) 森岡 峯 (三重県商工会議所連合会 監事) 堀 博敏 (三重県一般労働組合同盟 常任顧問)</p>
--	--

編集後記



事務局長 服部 勝

平素は、当会の活動に対しまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、5月30日に開催いたしました平成25年度総会には、ご多忙のところ多数のご出席を賜り、誠にありがとうございました。

さて、今年も異常気象とも思える現象が、世界の随所で起こっておりますが、これも、地球温暖化や環境問題が起因しているのではないかとさえ言われております。我々としては、「四季のある平穏な日常」を望むものです。そこで、当会としましては、活動理念でもあります「環境との調和を図ったエネルギーの確保等による低炭素社会の実現」を目指し、県民の皆さまの「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいりますので、会員の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



「みえ」のイニシャル「M」と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな「M」で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

お問い合わせ先(事務局)
 〒514-0004
 津市栄町3丁目248番地
 きりんセカンドビル302号
 TEL&FAX(059)229-3790
 HP▶http://www.e-mie21.com/

平成25年度 総会

平成25年5月30日(木)、三重県総合文化センターフレンテみえ多目的ホールにおいて、18回目となる平成25年度総会を開催し、会員をはじめ約270名の方に参加いただきました。

総会では、小菅会長の議事進行により、平成25年度の事業計画として、低炭素社会実現への施策の積極的な推進やエネルギー・環境への理解向上などを県に要望、新規事業として会員を対象にした複数回のセミナーを開催などの案が出されたほか、国の基本計画に沿い理解につながる啓発活動をする旨の声明書案等を審議し、六議案が満場一致で承認されました。

総会終了後は、皇學館大学教授の櫻井治男氏による「三重の文化的エネルギーをたずねて」～伊勢神宮の式年遷宮を迎えて～と題した記念講演が行われました。

小菅 弘正 会長 挨拶



「当会では、平成24年度は、『県民の皆様方が、エネルギーや環境の問題を正しくご理解いただくことが何より大事である。』との思いから、特に、『太陽光発電』に関しての正しいご理解をいただくための公募見学会をはじめとする諸活動を実施してきました。

そして、それらの諸行事にご参加いただいた多くの方々には、太陽光発電や風力発電などについてのメリットやデメリットについて、真の実態を正しくご理解願えたものと確信しています。

こうした地道な活動を通しての真の理解者の輪を広げていくことこそが使命だと考えているところです。また、国では、昨年末に新政権が誕生し、前政権で打ち出されたエネルギー政策が大幅に見直しされる中で、新しい『エネルギー基本計画』が策定されようとしています。

是非、国におかれては、超資源小国である我が国の将来を見据え、持続的発展やエネルギーセキュリティー等も含めた総合的見地からの冷静なご決断のもと、我が国にとって、最もふさわしい新たなエネルギー基本計画の一刻も早い策定を願うものであります。」と挨拶されました。

経済産業省中部経済産業局 資源エネルギー環境部 電源開発調整官 松岡 孝氏 挨拶



「この夏の電力は、安定供給に最低限必要とされる予備率3%を確保できる見通しではありますが、不測の事態が発生した場合、電力需給がひっ迫する可能性もあり、引き続き油断を許さない状況であります。

このような状況を考えて、政府としてはこの夏も沖縄を除く9電力管内において数値目標を定めず節電要請をお願いします。中部地域としても、国民生活、経済活動等への影響を極力回避し、無理のない形で確実にこなされるよう改めてお願い申し上げます。」と挨拶されました。

三重県議会議員 山本 勝氏 挨拶



「三重県においては、昨今遊休地を活用したメガソーラー等の太陽光発電施設や風に恵まれた地形を生かした風力発電施設等、地域特性に応じた安全で、安心な再生可能エネルギーの導入促進に官民挙げて取り組んでいるところです。

本年度、新たに新エネルギー等活用調査特別委員会を設置いたしまして、新エネルギーを活用した地域振興策等について、検討していくこととしております。」と挨拶されました。

平成25年度 事業計画

1 基本方針

当会では、創設以来、一貫して、国のエネルギー政策への理解者層拡大のための活動を展開しており、世界的に深刻さを増している地球温暖化や環境問題に関しても、CO₂を排出しない再生可能エネルギーや原子力発電の推進を始めとする諸施策について理解を図る等「環境との調和を図ったエネルギーの確保等による低炭素社会の実現」を目指して、広く県民の皆様方にご理解いただくべく、積極的に啓発活動を実施してきた。

そうした状況下で平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、我が国のエネルギー環境が一変した。

世論では、脱原発、再生可能エネルギーへの過度な依存が叫ばれるようになり、CO₂が排出される火力発電方式への転換にも関わらず、地球温暖化問題の無関心化など、加えて、我が国が目指す「低炭素社会」の言葉すらマスメディアに登場しないという社会環境下となった。

また、我が国の持続的発展のためにも、一刻も早い策定が望まれた震災後の新たなエネルギー基本計画も、策定がままならない状況が昨年末まで続いた。

そのような社会情勢の中での平成24年度事業は、会員・県民の多くの皆様方に、特に我が国の真のエネルギーの実情や、再生可能エネルギーについて、正しいご理解をいただく趣旨で、公開シンポジウム、講演会、見学会等を鋭意実施し、また、原子力発電所の地震・津波対策の現状等についても、現地を視察するなどの活動を通して、理解を深めてきた。

国では、昨年末に新政権が誕生し、前政権で打ち出されたエネルギー政策が大幅に見直しされる中で、新しい「エネルギー基本計画」が策定されようとしている。国におかれては、「再生可能エネルギーの課題」や「地球環境への影響」「国民への負担」等の正確な情報も発信していただき、エネルギーの90%以上を海外からの輸入に頼っている超資源小国である我が国の将来を見据え、持続的発展やエネルギーセキュリティー等も含めた総合的見地から冷静な決断のもと、我が国にとって最もふさわしい新たなエネルギー基本計画の一刻も早い策定を願うものである。

当会としては、エネルギーや環境問題について、多くの県民の皆様方が、冷静な視点で、かつ、自分の問題として捉え、自ら考え、自らの判断で、自ら行動するための啓発活動が必要であると感じている。

そこで、平成25年度においては、昨年度の事業を継承しつつも、エネルギーや環境の諸課題についての正しい理解者層の更なる拡大につながるよう、一步踏み込んだ内容を織り込んだ講演会や見学会等を実施するとともに、新たな理解者獲得のための啓発施策としてのセミナーを実施する。

2 活動計画

(1) 啓発活動

ア 会員に対する啓発活動

- ①地区別講演会、出前PAの開催
- ②エネルギー・環境関連施設見学会の開催
- ③セミナーの開設〈新規〉
- ④会報誌の発行(年2回)

イ 県民に対する啓発活動

- ①地区別講演会・公開シンポジウムの開催
- ②エネルギー・環境関連施設見学会(公募)の開催
- ③ラジオによる情報発信
- ④メディアへの広告出稿
- ⑤各種団体の大会誌への広告掲載
- ⑥当会ホームページによる情報提供
- ⑦会員の拡大

(2) 要望活動

基本方針に基づいた下記事項を国、三重県知事、三重県議会議長に要望する。

また、下記事項に対する側面的支援について、経済界を始めとする関係諸団体、行政に要望する。

ア 県当局等

- ①低炭素社会の実現に向けた諸施策の積極的な推進
- ②エネルギー・環境に関する正しい理解向上に資する情報の提供と施策の推進
- ③ピーク時の節電の促進、省エネルギーの推進に関する県民的活動の展開とその支援
- ④エネルギー・環境に関する次世代層教育のより一層の充実

イ 国

- ①我が国の持続的な経済成長と安心、快適、豊かな国民生活に向けた新たなエネルギー基本計画の早期策定

(3) 各種団体等との連携強化

上記の啓発活動をより効果的なものとするため、経済界を始めとする関係諸団体と連携した活動を積極的に展開する。

以上

声明書

エネルギーは、国民の生活や経済活動を支える重要な基盤であり、安定的に低廉な価格でのエネルギーの供給なくして、快適な生活や経済の持続的発展は維持することができません。

エネルギー自給率4%の超資源小国である我が国は、エネルギー資源の大部分については化石燃料への依存を余儀なくされ、海外からの輸入に頼っておりますが、過度な依存は、エネルギーセキュリティ面での脆弱性を増し、大きな課題となっております。

そのような中、新たなエネルギー資源として、純国産の「メタンハイドレート」が期待・注目されていますが、将来の実用化に向けてはまだまだ時間がかかるといわれています。

また、東日本大震災以降、省エネルギーの推進や節電への取組み等、エネルギー・環境に関する国民の意識は高まっているものの、地球温暖化問題に関しては、原子力発電所の停止による、電力の安定供給を確保するための火力発電の高稼働運転に伴う化石燃料への依存により、我が国の温室効果ガスの排出量は過去最大となり、非常に深刻な状況となっております。

そうした中、国内においては、太陽光や風力などの再生可能エネルギーが注目され、その導入に向けた環境づくりが国主導で進められてきました。

再生可能エネルギーの導入拡大および活用は重要ではありますが、天候等に左右されて発電出力が不安定なことから、主要電源には適しておらず、安定した電力の供給力確保には火力発電等で補う必要があります。

現在、国において、前政権のエネルギー政策を大幅に見直し、新たな「エネルギー基本計画」が策定されようとしております。国に対しては、「再生可能エネルギーの課題」や「地球温暖化問題」等についても正確な情報を提供していただき、超資源小国である我が国の将来を見据えて、持続的発展やエネルギーセキュリティも含めた総合的見地から冷静なご決断のもと、我が国にとって最もふさわしい新たなエネルギー基本計画の一刻も早い策定を願うものであります。

これまで当会は、エネルギー・環境問題は県民一人ひとりの問題として訴え、震災以降、太陽光・風力等の再生可能エネルギーの評価や課題、省エネルギーの積極的な推進やピーク時における節電の促進、エネルギーの多様化等について、見学会や講演会等による理解促進を図る等、国策を踏まえた立場での活動を展開してまいりました。

エネルギー問題、地球環境問題は世界規模の課題であり、その課題解決に向け取り組むことは、我が国の持続的な発展や地球に暮らす私たちの安心・快適・豊かな生活の維持に繋がるものであり、今の私たちに課せられた重要な責務であると考えます。

そのため、25年度は、エネルギー・環境問題に関し、広く県民の皆様の意識レベルの向上に寄与できる施策を実践することで、理解者層の一層の拡大を図るものとし、国の「エネルギー基本計画」が策定された暁には、その内容を踏まえ、県民の「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

当会は、民間の立場としてエネルギー・環境問題に取り組んでおりますが、本来、エネルギーや環境問題に関しては、国・県はもとより国民一人ひとりが自分自身の問題と捉え、考え、行動することが重要であると考えております。

そこで、国、三重県知事、三重県議会議長ならびに三重県経済界を始めとする関係諸団体および県内の市・町の行政に対して、当会の平成25年度事業計画に記載の要望事項について要望してまいります。

以上、声明いたします。

平成25年5月30日

記念講演会

「三重の文化的エネルギーをたずねて」
～伊勢神宮の式年遷宮を迎えて～

講師：櫻井治男氏

- I 伊勢神宮の構成と由来
- II 伊勢とトコロ
- III 式年遷宮の概要とはじまり
- IV 遷宮と文化的エネルギー

櫻井氏は、この遷宮をきっかけにここから発信していく。ということを考える必要があると話し、遷宮に関する貴重な写真をスライドで紹介しました。

遷宮は、「循環の再生」という言葉で表現できる伊勢の持っている知恵。それは、同じこと、同じものを繰り返すということは、発展性がないように、進化がないように思えるが、そのことで、逆に持続ということを考えさせてくれる知恵。そして、世界を広く見渡した時に、地域特性・民俗特性を持った祭りはそれぞれにあり、この近代社会においてもこうした深いといわれる祭りは、逆に世界の色々な民俗や地域の方々が持っている自分たちを勇気付けると思います。と話しました。



PROFILE

櫻井 治男 (さくらい はるお) 皇學館大学教授

昭和24年、京都府生。同46年、皇學館大学大学院文学研究科修了。
皇學館大学社会福祉学部教授。日本宗教学会理事、三重県文化財保護審議会委員、桑名市文化財保護審議会委員、名張市史編さん委員などに就任。博士(宗教学)。専攻は宗教社会学、神社祭祀研究。明治末期の神社整理と地域共同体との関わりの調査研究にたずさわり、近年は神道と環境問題、地域コミュニティと福祉文化についての関心をもって研究を進めている。
『蘇るムラの神々』(単著)、『地域神社の宗教学』(単著)、『三重県史 別編(民俗)』(編集・執筆)、『伊勢市史 八巻 民俗』(編集・執筆)、『知識ゼロからの神社入門』(監修)ほか著書論文多数。

啓発活動

講演会(共催)

当会より講師を派遣し、エネルギー・環境に関する正しい理解をいただきました。

東員町商工会通常総会記念講演会

- 開催日 平成25年5月27日(月)
- 会場 東員町商工会館
- 講師 竹内 純子氏(国際環境経済研究所理事・主席研究員)
- テーマ 太陽光・風力・脱原発 ～ドイツはエネルギー政策の理想郷?!～
- 参加者 約60名



見学会(共催)

エネルギー関連施設をご見学いただき我が国のエネルギー問題について考えていただきました。

鳥羽グリーンクラブ

- 開催日 平成25年5月25日(土)～26日(日)
- 見学場所 (1日目)中部電力(株)川越火力発電所、メガソーラーたけとよ
(2日目)中部電力(株)三重給電制御所
- 参加者 11名



三重県新生活運動推進協議会

- 開催日 平成25年7月2日(火)～3日(水)
- 見学場所 (1日目)中部電力(株)東清水変電所
(2日目)中部電力(株)浜岡原子力発電所
- 参加者 27名

【エネルギー施設見学会に参加して】

三重県新生活運動推進協議会 北川 友代

7月2日～3日の2日間、27名の会員がエネルギー施設見学会に参加させていただきました。

初日の静岡県地震防災センターでは職員の方から映像と話を交え、「地震と津波は繰り返し発生することから知識と対策が必要である」とのお話を伺い防災意識を高めました。次に見学した中部電力(株)東清水変電所は、東日本50HZ、西日本60HZと異なっている周波数を周波数変換設備を使って変換しています。東西の電力融通を行うポイントとして大きな役割を担い、安定した電気を効率よく私たちの家庭に届けてくれる施設です。普段何気なく使っている電気がこのように送られてくるんだなあと認識を新たにしました。

2日目は中部電力(株)浜岡原子力発電所の見学です。朝早く浜岡砂丘に行き、日本唯一の港をもたない発電所を海側から見ました。その後移動して原子力館へ行き原子力発電のしくみや安全対策、耐震の安全性の説明を聞きました。そして「浜岡原子力発電所」では入館までのチェックの厳しさにまず驚き、テレビでしか見たことがない燃料プールもガラス越しに見せていただきました。又、津波対策の巨大な防波壁を前にして対策のすごさを身を持って感じました。

見学を終えて安全、耐震、津波、緊急時の対策について対応されている事がわかり普段何気なく使っている電気エネルギーの供給について改めて考えることが出来ました。このような機会を与えて下さった21世紀エネルギーを考える会・みえの皆さまありがとうございました。



要望活動

要望書提出

平成25年度総会で採択された「声明書」(P5参照)に沿った要望書を三重県知事、三重県議会議長、経済産業省中部経済産業局長に提出しました。



■三重県知事
(平成25年6月5日)



■三重県議会議長
(平成25年6月5日)



■経済産業省中部経済産業局長
(平成25年6月13日)

■朝明商工会役職員

開催日 平成25年7月5日(金)～6日(土)
見学場所 (1日目) 九州電力 川内原子力発電所
(2日目) 九州電力 山川発電所(地熱発電)
参加者 18名

【川内原子力発電所と山川発電所(地熱発電)の見学を通じて】

朝明商工会事務局

今回、役員視察研修として九州電力の「川内原子力発電所」と「山川発電所(地熱発電)」を視察させていただきました。川内原子力発電所では、東日本大震災の教訓も踏まえ、原子力発電所は「多重防護」の考え方を安全確保の基本とし、「機械は故障し、人はミスをするもの」ということを念頭に、異常が起きてはすぐに原子炉を止めるしくみです。万が一事故が起きては、原子炉を冷やし、放射性物質を閉じ込めるしくみなど、何重もの安全対策が講じられていることを改めて認識致しました。

山川発電所(地熱発電)は、化石燃料を全く使わず地下から取り出した高温の蒸気による発電方式で、発電出力が安定していることから、年間2億3千700万kWh発電し、普通の家庭の約1万戸分をまかなっているそうです。また、発電に利用された後の蒸気を取り出した残りの熱水を再び地下へ戻すことから、資源を有効に活用する発電所でもあります。

今回の研修では、電力会社の電力安定供給に向けた取り組み、東海地方では見ることのできない地熱発電の仕組み、原子力発電所の地震、津波対策など参加者一人ひとりが見て、聞いて、学ぶことができ、大きな収穫があったと感じております。今後とも、商工会活動を通じて、エネルギーや環境問題について、身近なものとして関心をもって取り組んで参りたいと存じます。



■いがまち企業懇話会

開催日 平成25年9月3日(火)
見学場所 中部電力(株) 浜岡原子力発電所
参加者 19名

【浜岡原子力発電所見学後記】

いがまち企業懇話会 会長 柘植満博

本会は、平成の大合併以前の伊賀町時代から当地へ進出している企業と地元商工業者との交流を図り、より良い経済活動をするを目的に設立をされました。毎年、総会と同時に研修会を開催しています。今年、9月3日に19名で中部電力様の浜岡原子力発電所を見学させていただきました。当発電所は、東日本大震災直後に政府からの要請を受けて停止して以来現在も停止中ではありますが、再開を目指して地震、津波等の安全対策がなされております。私が特に関心が強かったのは海拔22mと言われる防波壁の建設でありました。基礎部分をどのような工法で安定させるのかが疑問でありましたが目視と説明で納得出来ました。今後も更に十分な安全対策を講じた上で廉価な電力料金で豊かな生活が出来ることを期待しております。最後に21世紀のエネルギーを考える会・みえの皆様へ御礼申し上げます。



■桑名三川商工会工業部会

開催日 平成25年9月5日(木)
見学場所 大学共同利用機関法人
自然科学研究機構
核融合科学研究所
参加者 21名



■いなべ市商工会工業部会

開催日 平成25年9月26日(木)
見学場所 中部電力(株) メガソーラーたけとよ、碧南火力発電所
参加者 48名

【視察研修会に参加して】

いなべ市商工会事務局

いなべ市商工会工業部会では、経済活動及び日常生活に欠かすことの出来ない「エネルギー」をテーマに、東日本大震災以降注目されている再生可能エネルギーについての視察研修会を開催し、参加者48名にて中部電力(株)の「メガソーラーたけとよ」及び「碧南火力発電所」を視察させていただきました。

当日は、メガソーラーたけとよにおいて、メガソーラーの現状や今後の普及に向けた課題、また震災以降の武豊火力発電所が担う重要性や再稼働に至った経緯などについて説明頂き、また、石炭火力発電では日本で最大規模を誇る碧南火力発電所も見学させていただきました。

普段、見るることのできないこれらのエネルギー施設を視察したことで、参加者一同、電力供給の現状及び、再生可能エネルギーについて正しく理解を深めることができ、より安定的な経済活動や日常生活を続けていく上で、エネルギー供給が今後どうあるべきかを考え体感できる貴重な一日となりました。

最後に、当会の視察研修会開催において、たいへんご尽力を賜りました21世紀のエネルギーを考える会・みえの方々にはたいへん感謝申し上げます。

ありがとうございました。



第6回役員視察会

当会役員の皆様方を対象に、エネルギーに関する更なる理解を深めていただくことを目的に視察会を開催しました。

開催日 平成25年9月3日(火)～4日(水)

見学場所 (1日目)大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所
(2日目)中部電力(株) 徳山水力発電所建設現場

核融合科学研究所(岐阜県土岐市)は、安全で環境に優しい次世代エネルギーの実現をめざし、海水からエネルギーを取り出すための研究を行っています。

太陽や星のエネルギーの源でもある核融合は、大気汚染物質を発生せず、海水中に燃料となる物質が全て含まれていることから、実現すれば人類は恒久的なエネルギー源を手に入れることができるとのことでした。



■ プラズマ真空容器の実物モデル。一億度の高温プラズマが閉じ込められます。



■ 試験コイル。



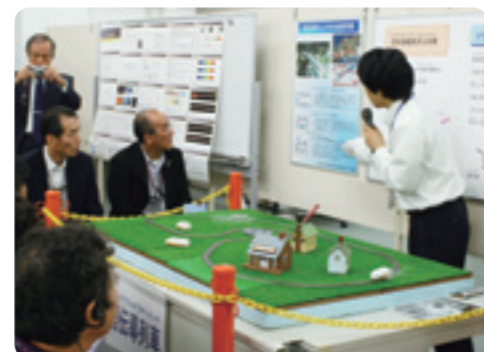
■ 日本発祥のヘリカル型の実験装置でこのタイプの実験装置では世界最大です。



■ 厚さ2mのドアは、ギネスに認定されています。



■ 制御室からは、コンピューターによって大型ヘリカル装置の遠隔操作が行われています。



■ 超伝導の力を体験。磁石でできたレールの上を、列車が浮き上がりながら走り回ります。

核融合エネルギーの特長

- ・ 海水からエネルギーが取り出せます。
海水18リットルに含まれる0.6グラムの燃料で、日本人の一人当たりの年間エネルギー消費量をまかなうことができます。
- ・ CO₂を排出しません。
水素の仲間同士を反応させてエネルギーを得るため、地球温暖化の原因物質であるCO₂を排出しません。

徳山水力発電所(岐阜県揖斐郡揖斐川町)は、岐阜県揖斐川上流部に多目的ダムとして建設された徳山ダムを利用し、153,400kWの発電を行う中部電力(株)最大規模の一般水力発電所として、平成27年には全機が運転できるよう建設工事が進められていました。安定的かつ低廉なエネルギーの供給に努めるとともに、地球環境の保全に配慮した電源開発が進められていることを知ることができました。



■ 徳山ダム。総貯水容量・堤体積日本一のロックフィルダム。



■ 水路トンネル入り口。1号放水路トンネルの延長は約4.1km。



■ 水圧鉄管路。内径5.4m。

お知らせ

第2回エネルギーを考える社会見学

開催日 平成25年12月4日(水)

定員 40名

見学場所 メガソーラーいーだ(長野県飯田市)

参加費 2,000円

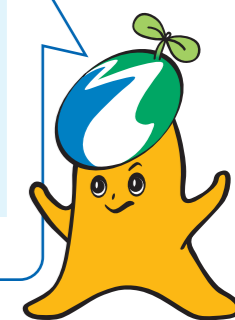
よみかき
読書発電所(長野県木曾郡南木曾町)

※詳細はHPでご確認ください

講演会

種別	開催日	場所
特別講演会	1月(2月)	津市内
地区別講演会	1月	松阪市内
	2月	津市内・菟野町内
	3月	玉城町内

多数のご参加をお待ちしております。



放送時間 ▶

月曜日
8:25～8:27

木曜日
17:48～17:50

土・日曜日
毎月5回放送

当会の活動をより多くの県民の皆さま方に知っていただくためレディオキューブFM三重で当会のコマーシャルを放送しております。当会の活動理念である「低炭素社会の実現」の重要性を説明したり、当会行事の案内を行ったりしています。ぜひお聴きになってください。

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方へ一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。